

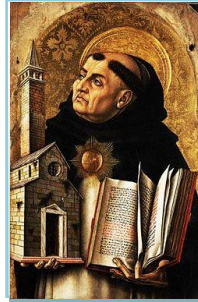
1月28日

司祭教会博士トマス・アキナス

Thomas Aquinas

(1225 頃～1274.3.7)

～「神学大全」の著者～



「トマス・アキナス像」

カルロ・クリヴェッリ作

15 世紀

イタリアのスコラ哲学者であるアキナスは、南イタリアの貴族ロッカセッカ城主の子として生まれる。モンテ・カシーノ修道院で初等教育を受けた後、ナポリ大学で学んだ彼は、アリストテレス哲学に出会う。同じころ、托鉢修道会のひとつであるドミニコ会に入ることを決めるが、母と兄弟は憤慨し、猛反対する。そしてアキナスはパリに向かう途中に家族に力づくで連れ戻され、城の中に閉じ込められてしまう。家族はあらゆる手段を使って、彼の決心を揺るがそうとする。

あるときは彼が閉じ込められている部屋に商売女を入れたが、彼は暖炉の薪を振りかざし、女を追い出した。

また別の時には彼の姉妹たちが説得しようとしたが、逆に感化を受けてしまい、ある者は修道女になり、別の姉妹は籠を使って彼を城から逃がしたという。そして彼はパリ、およびケルンで学ぶこととなる。

1256年にパリ大学の神学部教授となったアキナスはその神学に対する考え方で学生を魅了するが、保守的な神学者たちからは革新者として危険視されていく。

その後、3年でパリ大学の教授を辞任、10年間イタリア各地のドミニコ会の神学大学で教授を

しながら、69年再びパリ大学に戻る。そこでは、大学から修道会員を追放しようとする勢力、保守的な神学派、そして異端的なアリストテレス派という三者との論戦をおこなっていった。

彼は「神学大全」や「対異教徒大全」、そしてアリストテレスの主要著作の注解を書いたが、学問的活動の中に深い祈りの生活を織り込んだという。彼は学問に行き詰ると聖堂に入り、神と対峙し、深い祈りの中でその解決を見出した。あるとき十字架の前で祈っているアキナスに向かって十字架から「私についてよく書いた。どんな報いを望んでいるか」という声が聞こえたが、彼は「主よ、あなた以外は何も」と答えたという。彼は74年、リヨン公会議への途上に病死した。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたは主のしもべ、司祭教会博士トマス・アキナスの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣べ伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン